

V-321

アルカリ反応性骨材の判別技術の標準化に関する調査研究

全国生コンクリート工業組合連合会 正会員 〇 武山 信
法 政 大 学 正会員 小林正凡
（財）日本建築総合試験所 田村 博

1. はじめに：本報告は、通産省工業技術院が昭和61年度から同63年度にわたり、全国生コンクリート工業組合連合会に委託し、標記調査研究委員会（委員長：岸谷孝一、小委員会主査：小林正凡）で実施した研究成果の概要を述べたものである。
2. 研究目的：本研究の目的は、コンクリート用骨材の品質管理用試験方法として、骨材のアルカリ反応性を簡便・迅速に判定する試験方法（以下、簡易判定試験法と呼ぶ）を確立することにあった。
3. 研究方法：本研究は、図-1に示す手順で進められた。なお、簡易判定試験法の検討に際しては、同法による骨材のアルカリ反応性の判定が次の2つの条件を満たすように配慮された。
 - ① JIS化学法で「無害」と判定されるものを「無害」と判定する
 - ② JISモルタルバー法で「有害」と判定されるものを「有害」と判定する
4. 研究結果：主要な研究成果を図-2～5に示す。同図に示すとおり、JIS化学法およびJISモルタルバー法との整合性もとれた、信頼性の高い簡易判定試験法が確立された。
5. おわりに：紙数の都合上、極めて簡略に研究の概要を紹介した。研究の詳細については、同調査研究報告書を参照されたい。

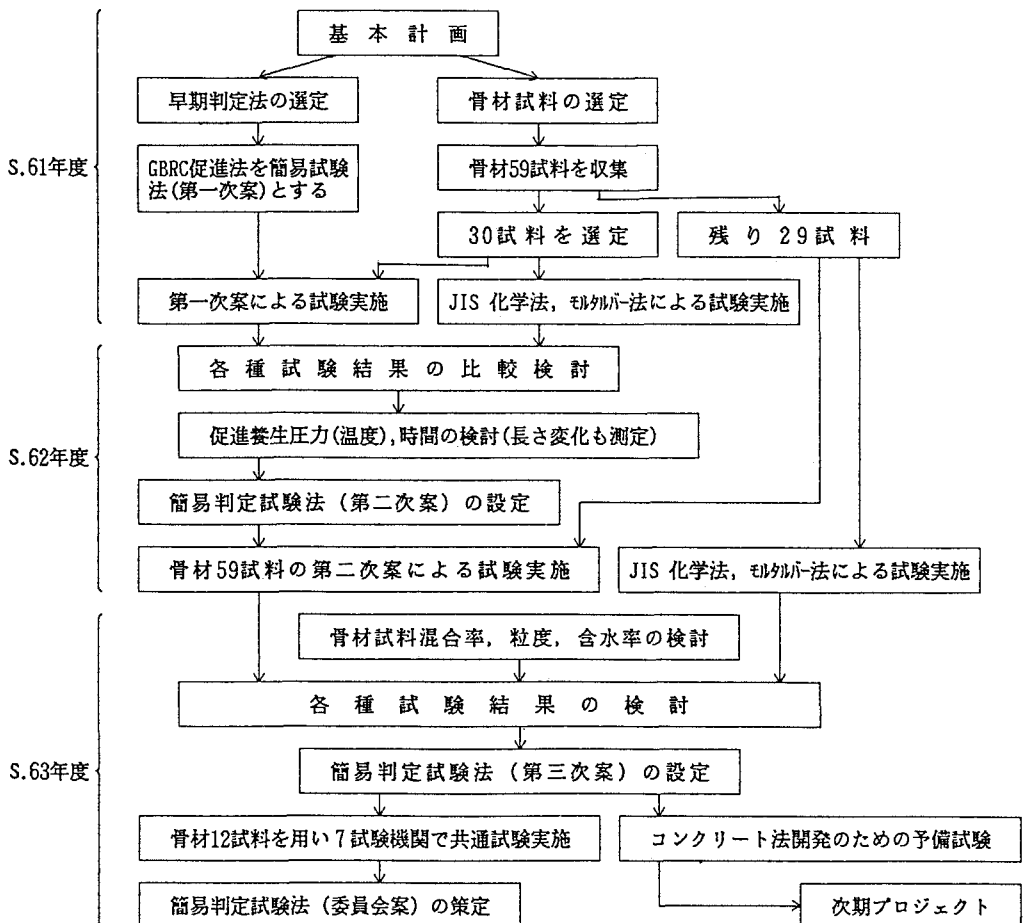


図-1 簡易判定試験法の開発研究手順

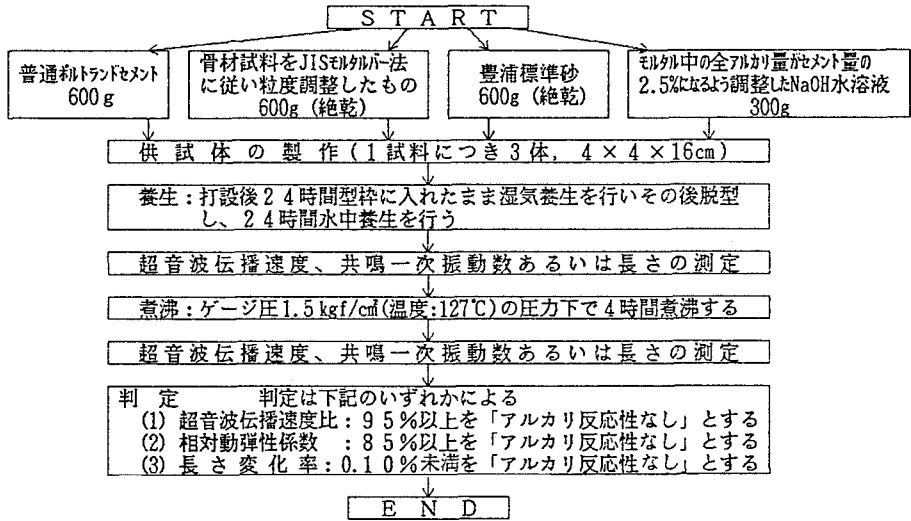


図-2 簡易判定試験法の試験手順

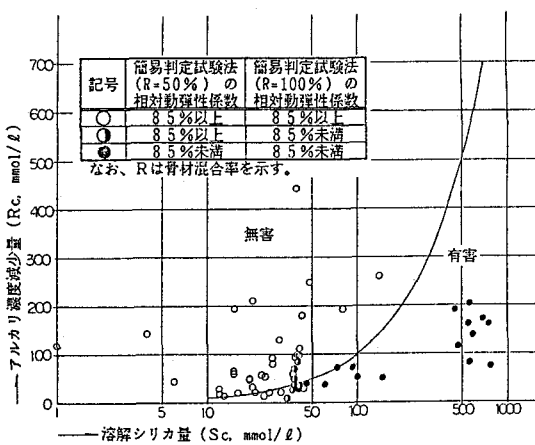


図-3 簡易判定試験法における骨材混合率の影響

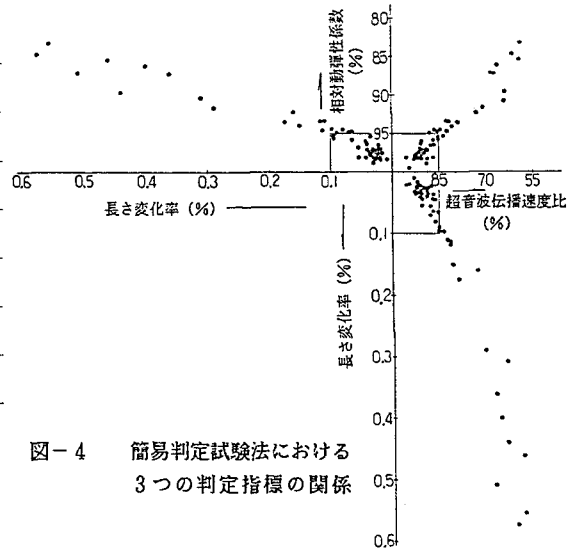


図-4 簡易判定試験法における3つの判定指標の関係

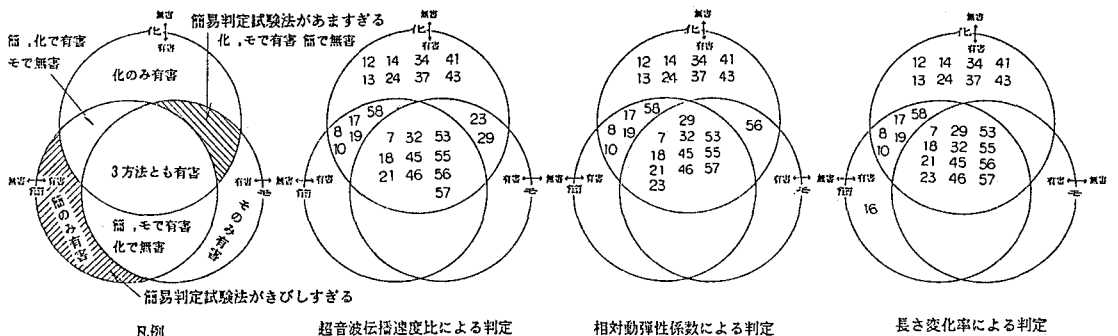


図-5 各種判定指標による判定結果の関係 注) 番号は、骨材試料Noを表す。
3方法とも無害のものは省略した。